

帆走中の操船というと極めて幅が広い内容になる。まず航海中であることを念頭に置き、人と船と周囲への安全を第一に考慮してことにあたる必要がある。

安全厳守事項：乗艇者は必ずPFD（救命胴衣、ライフジャケット）を装着していなければならない。

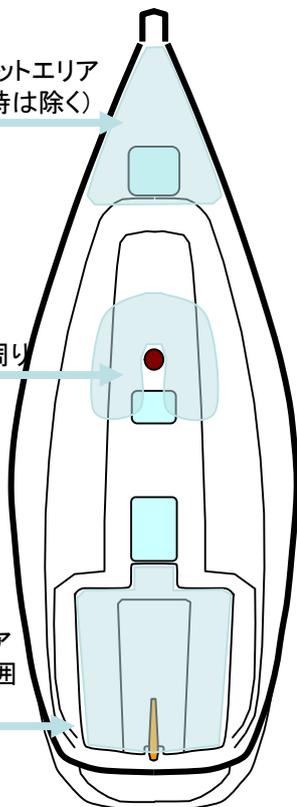
- (1) 裸足は禁止！靴はノンスリッパで靴底の色が落ちないものを履くこと。
- (2) 片手は必ず船体構造上しっかりしたものをホールドし、もう一方の手を作業に使うこと。  
(乗艇する船について、しっかりとしたホールドがどこにあるか、理解していなければならない)。
- (3) 可能な限り、いずれかのステイに腕をまわしておくことと確実。
- (4) フロッキングしているセールには近づかないこと。  
フロッキングしているセールのクルーもしくはシートが当たると骨折・打撲・裂傷等負傷する場合がある。
- (5) ライン類、特にテンションのかかっているラインを踏んだり、またいだりしてはいけない。
- (6) セールやラインの上に立ったり、ひざをついたりしてはならない。
- (7) コックピット内ではメインセールのブームの可動高より常に頭を低く保ち、シート（座席）上に立ったりしてはならない。
- (8) デッキ上を移動するときには、必ず風上側を通ること、決して風下側を通ってはならない。  
風上舷側を通ることにより、キャビントップを足がかりにすることができる。  
特に、いかなる場合においてもセールやブームの風下側にはならない。
- (9) 周囲の状況に常に注意を払い、身の回りで何が起きているのかを把握していること。  
(特にアクシデンタルジャイブの兆候等)
- (10) ライン作業をするとき、しっかり握ろうとしてラインを手に巻いてはならない。
- (11) コックピット、デッキなど、船上は常に整頓しておくこと。散らかった状態は事故につながる。
- (12) デッキ作業の際は必ずハッチを閉めてから行うこと。

## 安全なエリア

パルピットエリア  
(荒天時は除く)

マスト周り

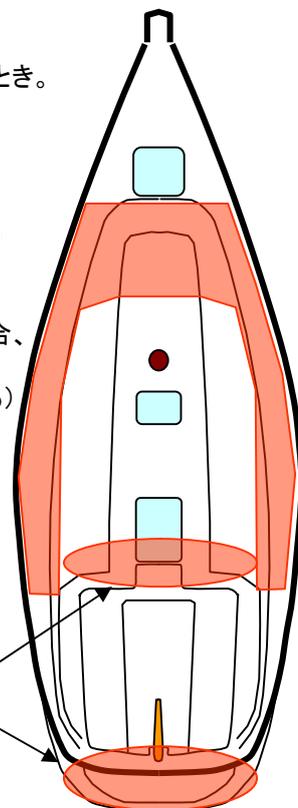
コックピットエリア  
(ブーム稼働範囲  
は姿勢を低く)



## 危険なエリア(状況)

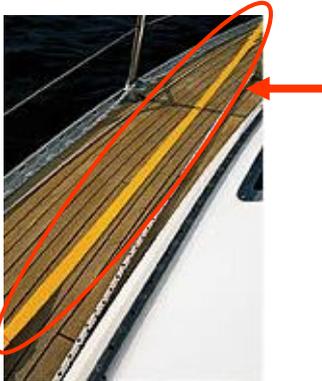
1. 風がとても弱く船が安定しないとき。
2. セールの上げ下ろし中
3. ダウンウインドセーリング中
4. インアイアンの状態
5. セーリング中の風下側デッキ
6. ジャイビング、タッキングの最中
7. メインシートがブームエンドに  
セットされコックピットの後ろ端に  
トラベラーがセットされている場合、  
コックピットも危険  
(シートが首に絡みつく恐れがある)

トラベラー



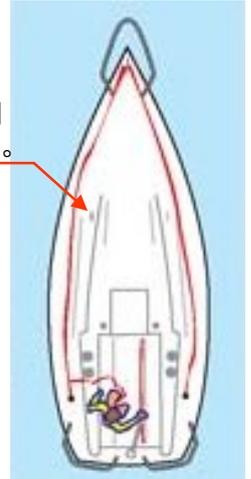
(1) ジャックステイ(ライン) Jackstays/Jacklines

ジャックラインは必ずしっかりしたクリート等にセットすること。



ジャックステイは4000～6000ポンド(2トンから3トン)のショックに耐えることのできるフラットナイロンロープである。装備位置は出来るだけ船のセンターに近くセットすることが好ましい。複数の短いステイを使うケースもあるが、その場合にはハーネスに二本のテザーをつけ、ステイへの付け替えの際にはどちらかのテザーがフックされているように運用する。

船のデザインによって、シュラウドの外側/内側のどちらを通すか決まる。



(2) セーフティハーネス、テザー、フック Safety Harness, Tethers And Hooks

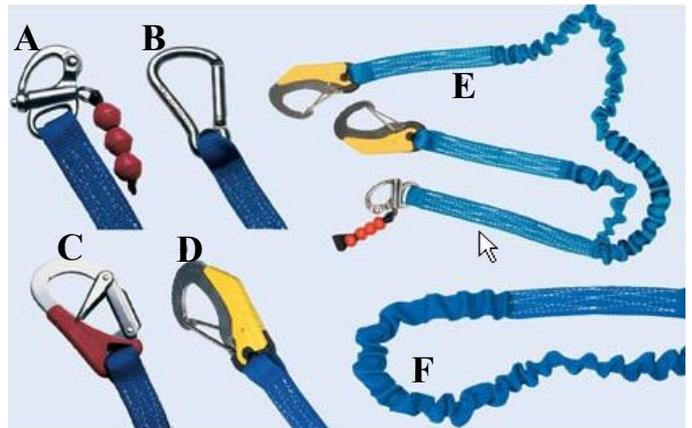
ハーネスとテザー・フックはミニマム4000ポンドの加重に耐える、ナイロン性のものを使うこと。



ハーネスはきちんとフィットするものを選ぶ



シングルテザー



- A: ハーネスエンド側フック (クイックリリース付き)
- BCD: ポートエンド側フック
- E: 3ウェイテザー
- F: ショック機能を持たせたライン

(3) ハーネスの着用 When To Wear a Haness.

このようなときに装着

1. 荒天時
  2. 夜間、もしくは視界不良時
  3. シングルハンド(ドックにおいても)
- 子供は、乗船中常にハーネスで船につないでおくこと。
  - ハーネス・ライフジャケットともに股下を通るストラップをつけること。

ポートエンド側のセーフティゲート付きフック



エキスパンダブルライン (3～6フィート)

クイックリリース機能  
 スナップシャックル

## (4)ハーネスを正しく使う Using harness Properly.

- a.ハーネスはきちんとフィットしていること、そして正しく装着すること。
  - b.フックは風上側(即ち、船の高い方のサイド)のステイ、シュラウド、Dリング、そしてジャックラインに取りつけること。  
仮に転倒等しても、水中ではなく、船の内側に留まる公算が大きくなる。
  - c.テンションのかかったワーキングライン、スタンション、ライフライン、これらにフックしてはならない(十分な強度が無い)。
  - d.荒天時、キャビンからコックピットに出る際には、コックピット内のリングやジャックステイなどにフックをかけてから出ること。
  - e.ハーネスストラップの長さは、作業をスムーズに行うに十分な長さにとどめること。  
長すぎるストラップは荷重ショックに耐える力が減衰し、最悪の場合には切れることがある。
  - f.シングルストラップよりもツインストラップ、又はダブルテザータイプを使うべきである。
- ※ライフジャケットは水中で浮力を与えてくれるが、ハーネスにより落水を防ぐ方がはるかによいのは自明のことである。

## (5)パルピットとライフライン Pulpit And Lifelines

ライフライン、パルピットはともにセーフティーのために取り付けられているが、これらを過信してはならない。

ヒールしたときに、落水を防ぐ用途から見るとこれらはまったく役に立たないと考えたほうが安全・妥当である。

又、テザーをフックした状態で人間の体重がかかると、これらでは全く支えることができない可能性のほうが大きいことを認識おかなければならない。



**以上のことが準備できたら、海上へ出かけよう。**